

学校外の学修の可能性をめぐって： コラボレーション講座と埼玉県立富士見高等学校

佐々木 隆

Concerning the Possibility of Off School Learning :
Collaborative Lecture and Saitama Prefectural Fujimi High School

SASAKI Takashi

キーワード：総合的な探究の時間、彩の国アカデミー、高大連携、コラボレーション講座

プロローグ

コラボレーション講座は武蔵野学院大学と武蔵野短期大学（以降「本学」と略す）が主催する高大連携の高校生用の講座で、2023年度より埼玉県立富士見高等学校（以降「富士見高校」と略す）は本学のコラボレーション講座に参加している。富士見高校は2023年度より総合的な探究の時間における生徒のテーマ設定を本学のコラボレーション講座に参加することで模索していた⁽¹⁾。

2023年度はコラボレーション講座に参加するだけであったが、2024年度には「オープンカレッジ研究発表会」（2024年12月14日）⁽²⁾を本学で開催し、39名の発表があった。

本稿では本学のコラボレーション講座が「彩の国アカデミー（学校外の学修）」⁽³⁾にどのような貢献したのかの検証を試みたものである。

1 コラボレーション講座

本学のコラボレーション講座は、1999年の中教審答申の「高大連携」⁽⁴⁾の具体的実践として、また、埼玉県が推奨する高大連携の「彩の国アカデミー」の事業として2003年度に地元の埼玉県立狭山高等学校（現在の埼玉県立狭山緑陽高等学校）と本学との間に「大学における学修の単位認定」についての協定が結ばれ、コラボレーション講座として発足し、現在に至っている⁽⁵⁾。

2024年度は15講座（一部模擬授業と共通）が開講された。講座のタイトルは以下の通りとなる⁽⁶⁾⁽⁷⁾。

- 1 チームワークとコミュニケーション（60分+90分）
- 2 他者理解：AIから見てくる他者（90分）
- 3 子どもの心の育て方（模擬授業：90分）
- 4 子どもの「福祉」を考える（90分）
- 5 実務英語：在校生インタビューと発音のコツ（模擬授業：90分）
- 6 「正しさ」について考える（90分）
- 7 心はどうなっているのか？（90分）

- 8 統合と分断に触れ動くEUーガバナンス・民主主義・ナショナリズムー (90分)
- 9 絵本でつながる社会 (90分)
- 10 台湾を知ろう！ (90分)
- 11 中世の手紙 (90分)
- 12 電子絵本を見てみよう (90分)
- 13 異文化理解の重要性：外国人と接する際に注意すべき10の動作と英語表現 (90分)
- 14 マンガ&アニメで勉強してみる (80分)
- 15 究する力とは何か (70分)

本学のコラボレーション講座は2つの大学が共同して実施し、国際コミュニケーション学科と幼児教育学科の特徴を生かした内容となっている。このため国際コミュニケーション学科の特徴を生かした英語関係や国際関係、幼児教育学科の特徴を生かした子育て支援、教育などを中心に、それ以外は教育課程などで設置されている科目の特性を生かしたテーマの講座となっている。さらに、2011年4月に施行された改正大学設置基準では以下のように示されている。

第四十二条の二 大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。

いわゆるキャリア教育の推進などもあり、こうした内容のものもコラボレーション講座では反映されている。改正短期大学設置基準も同様の趣旨である。

2 埼玉県立富士見高等学校の参加

富士見高校が本学のコラボレーション講座に参加を始めたのは2023年度からである。同校のホームページには以下のような掲載がある。

富士見高校の特色

大学クラス新設と高大連携について

富士見高等学校では令和5年度から大学クラスを新設。

また、高大連携も強化し、生徒の可能性を広げる挑戦を進めます。

詳しくは下記の資料をご覧ください。

富士見高校～さらなる挑戦～.pdf

大学クラスリーフレット.pdf

彩の国アカデミー～高大連携への挑戦～.pdf⁽⁸⁾

富士見高校では「彩の国アカデミー～高大連携への挑戦～」ではこの講座を「オープンカレッジ」と命名し「卒業単位とは別の「彩の国アカデミー（学校外の学修）」の1単位を修得できます」とある⁽⁹⁾。「学校外の学修」については、文部科学省も「学校外における学修の単位認定」として次のような説明がある。

2 大学、高等専門学校、専修学校等における学修の単位認定学校教育法 施行規則第98条第1号、平成10年文部省告示第41号)

校長は、生徒の大学、高等専門学校、専修学校(高等課程・専門課程)等における学修を高等学校における科目の履修とみなし、単位を与えることができます。

具体的には、

- (1)大学、高等専門学校における科目等履修生、研究生、聴講生としての学修
- (2)専修学校の高等課程における学修、専門課程における科目等履修生、聴講生としての学修
- (3)専修学校の高等課程・専門課程において高等学校の生徒を対象として行う附帯的教育事業における学修
- (4)大学が開設する公開講座における学修、公民館その他の社会教育施設において開設する講座における学修(高等学校教育に相当する水準を有すると校長が認めたものに限る)などが挙げられます。⁹⁸⁾

高大連携は今や各大学や各高校で実施されているが、その名称も様々である。しかし、高校生が大学での学びの機会を得ることで、高校では学ぶ機会がない分野、教科という枠にとらわれない学修をすることが大きな目的となっている。

富士見高校と本学では学校間連携協定書(以降「協定書」と略す)を結んでいる。2024年度の協定書の(趣旨)第1条では次のように定めた。(武蔵野短期大学とも同様の協定を締結している)

武蔵野学院大学は、埼玉県立富士見高等学校の生徒に対して、「学校外における学修」として上級学校の教育に触れ、教育内容の理解を深め、生徒自らの進路決定への意識的な取組の促進に協力することを目的として、授業を聴講する機会を提供する。

大学も高等学校も「学校外における学修」として捉えて協定を結んでいる。コラボレーション講座は大学の教育内容の理解を深めるために、大学の教員が各講座を担当している。

オープンカレッジ(本学での名称はコラボレーション講座)は2024年5月25日～7月20日に実施され、最終的には12月14日の研究発表会でまとめとなった。研究発表会で39名(1年生15名、2年生24名)の高校生が発表したタイトルは以下の通りである⁹⁹⁾。(便宜上番号を付した)

- 1 小説 2 働き方改革 3 お墓 4 高齢者の交通事故を減らすには
- 5 色で変わる印象 6 人間と動物の「ちがい」について
- 7 コミュニケーションとは? 8 ペンギンはなぜ飛べないのか、
- 9 選挙と若者の関係について 10 Disneyはなぜ夢の国と呼ばれるのか
- 11 仮面ライダーが子供に与える影響 12 最高の人生にするには 13 人種差別
- 14 なぜ、フィンランドの幸福度は高いのか? 15 子どものいる暮らし
- 16 コミュニケーション能力 17 暖(温)かいインテリア・涼しいインテリアを探そう!
- 18 教師の労働問題について 19 障がい者雇用の促進について
- 20 漫画が面白いわけ 21 アニメの歴史
- 22 感動が生む絆:地域社会を豊かにする力

- 23 SNS ネット上での人とのコミュニケーションについて
- 24 新型コロナウイルスについて
- 25 テクノロジーの進化による社会問題はどのようなものがあるか
- 26 看護師不足について 27 草食系男子がモテる理由
- 28 AIに奪われない仕事ってなに？ 29 子供の貧困について
- 30 理学療法士の現状とは？ 31 英語の歴史と和製英語
- 32 好きなゲームについて 33 最高の人生にするには 34 ねるねるねるね
- 35 オーバーツーリズムの問題と対策とは？ 36 左利きについて
- 37 フィリピンと日本の文化の違い(?) 38 LGBTQの結婚について
- 39 ヤングケアラーについて

生徒がそれぞれ興味関心のもとに設定した探究テーマであるが、学習指導要領の改訂の基本方針と照らし合わせてみても、合致するものである。

- ・進化した人工知能（AI）が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されるIoTが広がったりするなど、Society5.0とも呼ばれる新たな時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測もなされている⁹³。
- ・選挙権年齢が引き下げられ、更に平成34（2022）年度からは成年年齢が18歳へと引き下げられることに伴い、高校生にとって政治や生活は一層身近なものとなる⁹⁴。
- ・キャリア教育の視点で学校と社会の接続⁹⁵
- ・自己の在り方生き方を考えること⁹⁶

「探究では、生徒が、身近な人々や社会、自然に興味・関心をもち、それらに意欲的に関わろうとする主体的、協働的な態度が欠かせない」⁹⁷とあり、オープンカレッジはまさにこれを体現したものである。特に、今回参加した生徒は高校1・2年生という早い段階からこうした主体的な取り組みに関わることで、視野を広げ、様々な視点でものごとを捉えることができるようになるだろう。

3 研究発表のテーマとコラボレーション講座の関連性

2024年のコラボレーション講座については富士見高校からテーマや内容について特別なリクエストはなかった。従って高校生はオープンカレッジ（彩の国アカデミー）として、本学のコラボレーション講座を参考にしながら自らの興味・関心に基づいて探究のテーマを設定したことになる。「コラボ15 探究する力とは何か」（以降「コラボレーション講座の番号を示す場合には「コラボ」と略し、富士見高校の研究発表の場合には「探究」と略す）。は講座全体の趣旨を取り上げた内容で、最終回に実施された。しかし本来ならば、これが第1回目に実施されれば、以降の取り組みについても大きなアドバイスの役割を果たすことになる。一方、最終回のまとめとしての意味合いは、7月20日がコラボレーション講座は最終回であったが、富士見高校では12月14日に研究発表会が開催されてことを考えれば、高校生はこの講座が終了しても発表までに5ヶ月という時間があり、コラボレーション講座終了後にさらに「探究」することについて再考する機会となったことの意義は大きいとも考えられる。各講座と探究テーマの関連性を見ておきたい。

※はかなりインスパイアを受けていると思われるもの、○はキーワードにより関連性が認められるもの、□領域や考え方などにより関連性が認められるものに分類した。

- 1 チームワークとコミュニケーション
 - ※「探究7 コミュニケーションとは」「探究16 コミュニケーション能力」
 - 「探究2 働き方改革」「探究19 障がい者雇用の促進について」
 - 「探究6 人間と動物の「ちがい」について」「28 AIに奪われない仕事ってなに？」
- 2 他者理解：AIから見えてくる他者
 - ※「探究7 コミュニケーションとは」「探究16 コミュニケーション能力」「23 SNS ネット上での人とのコミュニケーション」「探究25 テクノロジーの進化による社会問題はどのようなものがあるか」
 - 「28 AIに奪われない仕事ってなに？」
- 3 子どもの心の育て方
 - ※「探究15 子どものいる暮らし」
- 4 子どもの「福祉」を考える
 - ※「探究15 子どものいる暮らし」「探究29 子供の貧困について」「探究39 ヤングケアラについて」
- 5 実務英語：在校生インタビューと発音のコツ
 - 「探究31 英語の歴史と和製英語」
- 6 「正しさ」について考える
 - 「探究13 人種差別」「探究38 LGBTQについて」
- 7 心はどうなっているのか？
 - 「探究5 色で変わる印象」
- 8 統合と分断に触れ動くEUーガバナンス・民主主義・ナショナリズムー
 - 「探究9 選挙と若者の関係について」「探究13 人種差別」
- 9 絵本でつながる社会
- 10 台湾を知ろう！
 - 「探究37 フィリピンと日本の文化の違い（?）」
- 11 中世の手紙
 - 「小説」
- 12 電子絵本を見てみよう
- 13 異文化理解の重要性：外国人と接する際に注意すべき10の動作と英語表現
 - 「探究7 コミュニケーションとは？」
- 14 マンガ&アニメで勉強してみる
 - 「探究20 漫画が面白いわけ」
 - 「探究21 アニメの歴史」
- 15 探究する力とは何か
 - ※個別の探究のテーマと直接結びつくものではないが、「探究」という大きなテーマで全体像をカバーする役割を果たした。

15の講座うち「コラボ15 探究する力とは何か」は全体的なものとなるため個別の関連性を考察するには向いていないため、14講座について関連性は以下の通りとなる。

- ※かなりインスパイアを受けていると思われるもの 10
- はキーワードにより関連性が認められるもの 5
- 領域や考え方などにより関連性が認められるもの 11

コラボレーション講座は高校生が上級学校の教育に触れることが重要で、高等学校の教科で取り扱いのない領域やほとんど取り上げられることのなかった事項を取り上げている内容もある。その意味でコラボレーション講座からインスパイアを受けたと思われるものは39の探究テーマ中10程度ある。単に探究のテーマ設定だけでなく、講座における大学教員が提供している資料、講義中に活用しているパワーポイントなども参考になっている可能性も高い。2024年12月14日の研究発表会でも高校生はパワーポイントを駆使しプレゼンテーションを行っていた。

直接関連性が認められないものもあるあるが、中でも「コラボ9 絵本でつながる社会」「コラボ12 電子絵本を見てみよう」は、コラボレーション講座を主催する武蔵野短期大学には幼児教育学科があることから、この講座は幼児教育の内容として当然の内容である。幼児教育学科では保育者を養成する学科であり、幼稚園教諭二種免許状や保育士の資格が取得できる。大学の教育が直接、キャリアに結びつく学科でもある。このことを考え合わせると、「探究26 看護師不足について」「探究30 理学療法士の現状とは？」は職業としての看護師・理学療法士を考えると共に、進路としてこうした資格を輩出する学科への進学なども視野に入って可能性もあろう。また、「探究18 教師の労働問題について」なども同様で、労働などについて取り上げるものが多く見られたことは高校生が今後のキャリアについて真剣に考えていることの一端が見受けられる。

4 教科・科目等の枠を超えて探究する学修

教科・科目等の枠を超えて探究する学修は、「総合的な探究の時間」の最もたるところだ。学習指導要領によれば、以下の通りである。

横断的・総合的な学習を行うというのは、この時間の学習の対象や領域が、特定の教科・科目等に留まらず、横断的・総合的でなければならないことを表している。言い換えれば、この時間に行われる学習では、教科・科目等の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科・科目等で身に付けて資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくことでもある¹⁰⁾。

また、学習指導要領の「第7章 総合的な探究の時間の指導計画の作成」では4つの課題が示されている。

- 横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）
- 地域や学校の特色に応じた課題
- 生徒の興味・関心に基づく課題
- 職業や自己の進路に関する課題¹⁰⁾

オープンカレッジに参加した富士見高校の生徒はその探究テーマを見る限り、「横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）」「生徒の興味・関心に基づく課題」「職業や自己の進路に関する課題」の3つが主流となっている。さらにコラボレーション講座を通して、「主体的な学び」、研究発表会などを通して「対話的な学び深い学び」のプロセスを経ている⁹⁹。

エピソード

高大連携による取り組みには大学と高等学校の連携、さらにはこの連携を通して学習の場を広げ、学外での学修に取り組むようとする生徒の意識が大きく左右することは言うまでもないことである。本学の場合には専門領域が異なる学科に基づく講座を開講することで、幅広い内容を提供でき、生徒の興味関心を喚起することができた。本学では2025年度よりこうした学外との連携を強化するために、社会貢献センターを設置した。今後も「教科・科目等の枠を超えて探究する価値のある課題」を盛り込んだ講座の内容の提供が望まれる。

註

- (1) 佐々木隆「新課程における「総合的な学習の時間の指導法」の実践報告」『新教育課程研究』、第50号、武蔵野教育研究会、2024年、11-21頁。
- (2) 「【ニュース】大学の先生の前でミニ研究発表！ 投稿日時：2024/12/14」https://fujimi-h.spec.ed.jp/blogs/blog_entries/index/page:2?frame_id=1072&page_id=91 Accessed 8 Jan.2025.
- (3) 「富士見高校の特色」<https://fujimi-h.spec.ed.jp/> Accessed 8 Jan. 2025.
- (4) 中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」（1999年12月16日）https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/991201.htm Accessed 25 Dec.2024.
- (5) 「コラボレーション講座」、『令和4年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書〔日本高等教育評価機構〕 令和4（2022）年6月 武蔵野学院大学』、p.92. https://www.jihe.or.jp/kanbetsu/2022/jikohyoka/65musashino_gakuin_university.pdf Accessed 25 Dec.2024.
- (6) 「2024年度コラボレーション講座 日程」https://www.musashino.ac.jp/mgu/wp/wp-content/uploads/2024/04/collabo_schedule.pdf Accessed 7 Jan. 2025.
- (7) 「2024年度オープンキャンパス日程」https://www.musashino.ac.jp/mgu/admission/open_campus/ Accessed 7 Jan. 2025.
- (8) 「富士見高校の特色」<https://fujimi-h.spec.ed.jp/> Accessed 8 Jan. 2025.
- (9) Ditto.
- (10) 文部科学省も「学校外における学修の単位認定」https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1247229.htm Accessed 13 Jan. 2025.
- (11) 『埼玉県立富士見高等学校 オープンカレッジ研究発表会』プログラムより。なお、発表タイトルについては埼玉県立富士見高等学校よりデータを提供して戴いた。紙面借りて御礼申上げたい。
- (12) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間』、文部科学省、2018年、1頁。https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/11/22/1407196_21_1_1_2.pdf Accessed 21 June. 2025.

- (13) 同書、1 頁。
- (14) 同書、3 頁。
- (15) 同書、14頁。
- (16) 同書、19頁。
- (17) 同書、22頁。
- (18) 同書、90頁。
- (19) 同書、120-121頁。

特記事項：本稿は2024年度の武蔵野学院大学・武蔵野短期大学が開催したコラボレーション講座に参加した埼玉県立富士見高等学校（彩の国アカデミーの一環としてオープンカレッジと称して実施）の取り組み状況を、県立富士見高等学校の許可を得て「学校外の学修」の視点から捉えて掲載したものである。入稿の時期との関係から2025年度実施ものが掲載できなかったことはお断りしておきたい。